

野球の日本代表選手たちこの一夜の事件も告白!?

女性アスリートたちの 恋愛、結婚、オリンピック

最近、なでしこJAPANの川澄奈穂美選手に同性の恋人発覚と噂されたり、オリンピックの元メダリスト有森裕子さんや田中雅美さんの離婚が発覚したりと、女性オリンピック選手の恋愛模様が何かと騒がしい。果たして、ストイックな生活を送る彼女たちの恋愛事情とは? 元ソフトボール日本代表監督の宇津木妙子さんと、元同代表選手だった安藤美佐子さんに、今だから話せる恋バナを聞いちゃいました♥

アホンマ安田 | 文 奥山智明 | 写真

words by Ahonnu Yasuda, Photo Tomoaki Okuyama

元選手
に聞く
1



安藤美佐子
元ソフトボール日本代表

元ソフトボール日本代表監督
宇津木妙子



シドニー五輪で銀メダルを獲得したソフトボールの日本代表メンバーたち。宇津木監督には、選手たちから手作りの金メダルが贈られた。(写真/共同通信)

——宇津木さんは女子ソフトボールの日本代表監督として、銀メダルを獲得した2000年のシドニー五輪、それから4年後に銅メダルを獲ったアテネ五輪でもチームを牽引されました。そして、安藤さんはシドニー五輪出場選手のおひとり、"世界のショートストッブ"という異名がつくほどの活躍ぶりを見せてくださいましたね。本日はそんなお2人に、"女性オリンピックの恋愛と結婚"について語っていただければと思ってお

ります。

安藤美佐子 (以下、**安**) それについては監督を中心に聞いてください。私、結婚はおろか、お付き合いしている人もいないので(笑)。**宇津木 妙子** (以下、**宇**) 安藤をはじめ、シドニーのメンバーは、ほんとにしごいたんですよ。こんな言い方はよくないかもしれないけど、「ソフトボール界のために犠牲になってもらった」と言っても過言ではないくらい。もちろん「日本のために」という気持ちもあり

ましたが、一番の動機は日本でソフトボールを認めてもらいたかったから。そうした思いをこの子たちにも背負わせて、結果的には銀メダルにまでつながったわけですが……それから12年たった今、計15人いたメンバーのうち結婚しているのは、ピッチャーの石川多映子とキャッチャーの山田美

葉、ショートの内藤恵美に、ファーストの伊藤良恵のたった4人だけ。その現状を踏まえると、ソフトボールだけじゃなく、「女性としての生き方」の指導もしておくべきだったって思うんです。私はシドニーの2年後にさっさと結婚してしまっただけで、なおさら。**安** まあでも独身だからといって今の生活に不満があるわけではな

かったです。海外にはすでに結婚して子どももいて、なおかつスポーツも続けている女性アスリートはたくさんいたからね。だから「私はスポーツだけでなく、結婚も出産も全部クリアしたい」って気持ち

ミットですしね。それを警告するかのように、最近やたらと男の人の連絡が増えたんですよ。30歳の時もやたらうるさかったんですけど。
——うるさいって……それは俗に言う「モテ期」というやつでは？
安 いや、モテているわけじゃないんですよ。単に連絡が増えたっただけで。
宇 でも、連絡をくださる相手の方は、真剣に考えてくれてるかもしれないじゃない。まさか遊ばれてるわけじゃないでしょ？
安 それは絶対ない！ 私、遊ばれるの大嫌いなんで。逆に「遊んでやる」くらいの気骨はあるけど、遊び相手に安藤さんを選ぶような命知らず、めったにいないと思います。
安 ですよ(笑)。男の人から言わせると、私みたいな女ってかなり手ごわいらしいんですよ。どう手ごわいのか、自分じゃよくわからないんですけど。
宇 恋人や妻にするには覚悟が必要(笑)ってことでしょ。確かにそうだと思う。安藤だけじゃなく、シドニーのメンバーに関しては。
安 うん、それはありますね。やっぱりソフトボールで勝負してきているから、男の人に対しても「覚悟できてんのかよ」って、つい戦闘態勢を取っちゃう(笑)。ああ、それがいけないんでしょうね……。

宇 シドニーのメンバーはいまだにほとんど独身だけど、「ひとりで生きていく覚悟」はちゃんと持ってる。

そこはえらいと思うよ。実は結婚して子どももいるけど離婚を考えている子もいて、その子も「シングルマザーでも、子どもは立派に育てる」って言ってるし。そして、そういう子

に対して「仕事に忙しい時は、代わりに私が子どもの面倒を見てあげるよ」と申し出る子がいたり、助け合って、支え合っている関係性は今も変わらない。メンバー同士が固い絆で結ばれているんだなあって、はたから見ても感じる。

宇 なるほど。そういえば五輪では、毎回各国の選手が宿泊する「選手村」と呼ばれるような施設が作られますけど、そこで別種目の男性選手と出会い、恋に発展するケースもあるわけですね。谷亮子議員と夫でプロ野球選手の谷佳知氏のように。

安 あるみたいですけど、私たちには一切なかったですね。全員、勝負のことしか頭になかったので



08年の北京五輪後、ソフトボール選手たちは、また五輪で競技が復活することを願った。(写真/共同通信)

あ、でもスポーツドクターが「両者にとって気晴らしになれば」という気遣いで、松坂大輔選手とか野球の日本代表選手たちを宿舍に連れて来てくれたことはありました。あとで監督にめっちゃめちゃ怒られましたけど(笑)。

宇 宿舍に帰ったらこの子たちの部屋がやけに騒がしくて、「何してんだ?」と思ってマネージャーに電話して、そこで経緯を知ったんですよ。まあ確かに気晴らしになるだろうし、日本代表選手同士じゃないとわかり合えない話もあるだろうから、「ほどほどの時間になつたら帰らせてね」とだけ言って電話を切ったんです。そのやりとりをマネージャーから聞いた

ドクターが野球選手たちを一度帰らせたらいいんですけど、その後別のドクターがまた連れて来ちゃって。それでまず、ドクターたちを叱ったんですよ。

安 ドクターはよかれと思ってやったことなのに(笑)。私たちも決していやらしい話をしていたわけではないんですけど、やっぱり女だらけのところに男の人が来たら、ちょっと色めき立つじゃないですか。しかも野球選手だし♥それでドンチャン騒ぎをしてしまつて、さらに次の日のカナダ戦で3ポイントを7回で追いつかれてしまい……。

宇 あの時は怒ったね。試合後にわざとドクターがいる前で「昨日みたいな気持ちでやってるから、こんなことになるんだ。勝てたのは奇跡で、普通だったら負けるゲームだ」って。

安 ああもう思い出したくない(笑)。まあ単純に考えて、選手村とか試合会場での出会いは、個人競技の選手同士じゃないと成立しにくいと思います。団体競技だとしてもチームでの活動が中心になってくるので。あと、それによって「自分勝手な行動はチーム全体に影響するから慎重」という責任感が身につく半面、同時に「ひとりじゃ行動できない」という弱さも抱えてしまいがち。だから、選手としては器用なほうでも



宇津木 妙子(うつき・たえこ)

1953年、埼玉県生まれ。97年、ソフトボール日本代表監督に就任。チームを00年のシドニー五輪で銀メダル、04年のアテネ五輪で銅メダルへと導く。02年には、会社の後輩であった現・夫と結婚。現在は実業団ルネサス高崎のシニアアドバイザーを務める傍ら、東京国際大学ソフトボール部総監督、NPO法人ソフトボール・ドリームの理事長も務める。

「1番に考えているのはソフトボールのことで、主人のことなんて3番か4番目(笑)」

ひとりの人間としてはものすごく不器用な人って、団体競技にはわりと多いんですよ。私もそうだし。それがだと現役を退いて一般人になっても、恋愛をするのはなかなか難しいですね。でも、本格的にソフトボール選手になる以前たとえば高校時代に恋のひとつや2つくらい経験されたのでは?

宇 やっぱり女子校とか女子チームって、自然とそうやって「男役」と「女役」に分かれていくよね。恋愛にまでは至らなくても、そういう傾向は多少なりとも出てくる。そんなふうには支え合うなんて、正

だんです。だから、高校時代はもうすでにソフトボールにのめり込んでいたね。おかげさまで女の子にはモテましたけど(笑)。もともと夙川学院はスポーツが盛んな学校で、ほかの運動部にも男みいたな女の子がたくさんいて、「いかに女の子にモテるか」ということを競り合ったりしました。

